

20012

<くまもと遠隔医療ネットワーク>を用いて治療方針を決定した労作性狭心症の一例

【背景・目的】血管撮影装置を有しない地域の病院で、住民がカテーテル治療を受ける場合、遠方の循環器専門施設を受診する必要がある。距離を隔てた循環器専門施設へ複数回受診することは患者負担が大きい。くまもと遠隔医療ネットワークは、熊本県の市内基幹病院と地域の病院間で、独自のネットワーク回線より、相互に検査画像・医療情報を共有するシステムである。本システムを用いて効率的な紹介受診ができた症例について報告する。【症例】75歳男性。農作業中に胸部の締め付け感、呼吸困難感の自覚があり、当院受診した。心臓CTで回旋枝#13に90%狭窄を認め、本システムを用いて循環器専門施設にコンサルトを行った。服薬コントロール後も胸痛の改善がないため、経皮的冠動脈形成術適応として循環器専門施設へ紹介となる。冠動脈造影では、回旋枝#13が完全閉塞まで進行していたため、薬剤溶出性ステント留置術（Xience2.5\*23）を施行し、血行再建に成功した。Follow-upは地元の病院で冠動脈CTを用いて評価を行った。最終的に循環器専門施設の受診は入院を行った1回のみであった。【考察】本システムを用いることにより効率的な紹介受診ができた。地域医療において、本システムは患者負担を軽減させる可能性があり、また重複した検査、診療の防止に繋がると考える。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号